


ふりがな 氏名	ながしま りえ 長嶋 里恵	都道府県 東京都	
所属/肩書	上智大学総合人間科学部教育学科		
私のESD活動	障がいの有無や文化の違いを超えて、一人ひとりが個の輝きを実感できる場を子どもたちと共に創っています		
ESD活動を表すキーワード	多様な人と人とのつながり	共生	個の輝き

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

私が活動してきたESDの活動は以下の2つ（うち一つが現在進行中）です。

① 特定非営利法人 Learning for All

ここでは、日本の子どもの貧困の課題に焦点をあて、すべての子どもたちが生まれた家庭にかかわらず、将来の可能性を最大化するというビジョンのもと、都内の教育委員会やソーシャルワーカーとの連携による学習支援を実施しています。子どもたちへの学習機会の提供だけでなく、大学生が課題の当事者となり、解決できる人材の育成に力をいれているということも、この活動の特徴の一つです。ただ単に子どもたちに勉強を教えるのではなく、大きな学習遅滞を抱える原因は何かという要因分析を深く行い、一人ひとりの子どもたちのビジョンを描き、そのビジョンを落とし込んだ指導を設計・実施していき、振り返りを行うというサイクルで子どもたちの可能性を最大化しています。

私は2014年1月から3か月間学生教師として、2014年3月から2015年3月まで1年間学校連携拠点にて現場管理責任者として活動しました。

② 発達障害のある子どもたちとともに

①のLFAで、通常学級にも発達障がいなどの特性によって学校の学習についていくことが難しく、自信を失っている子どもに出会いました。通常の学級にも、特別な支援を必要としている子どもたちが存在していることに気づき、もっとこのような特別なニーズを抱える子どもたちと学び、それに応えられるようになりたいと考えようになりました。現在は通常学級や特別支援学級などの在籍に関わらず、多様な特性を持つ子どもたちと共に活動することで、「すべての子どもたちが自信をもって生きていくことができる」環境づくりに取り組んでいます。

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？

私は、多くの子どもが学校と家庭のみを行き来する生活を送っており、子どもたちが学校と家庭での評価を絶対視することで、必ずしも全員が自分自身の良さに気付いているわけではないということに課題意識を感じています。学習が何らかの要因で苦手な子どもは、輝く場所を見つけてもらうことができずに、次第に自信を失っていきます。これが、いじめや不登校にもつながりかねません。子どもたちは「一人ひとり輝く部分が違うけれど、必ず輝く部分を持っている」ということを今まで出会った子どもたちが教えてくれました。だからこそ、今後は学校の外でも子どもたちが学べる・新しい経験をする場を創る活動をしたいと考えています。人は、多様な人と会うことによって視野を広げ、成長することができると思っています。年齢も出身も、もちろん経験も異なる大人や子どもが出会い、つながり、そして共に学ぶことのできる機会を展開していきたいです。